

北九州第2期事業の概要について

北九州PCB廃棄物処理施設（第2期）の施設については、ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会報告書「北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業（第2期）の処理施設について」（平成17年11月）及び1期施設並びに他事業所の操業実績を踏まえ、以下のように計画した。

1. 処理対象物

処理対象物は処理対象区域17県の区域内に存する以下に示すPCB廃棄物とし、既設の第1期処理施設と相まって処理するものとする。

トランス・コンデンサ等：高圧トランス及び高圧コンデンサ及びこれらと同程度の大型の電気機器が廃棄物となったもの（PCB及びPCBを含む油を含む）

処理困難電気機器等：処理が困難とされてきた電気機器

汚染物等：蛍光灯用安定器を含む小型電気機器、感圧複写紙、ウエス、汚泥等のPCB廃棄物

運転廃棄物：施設の運転に伴い生じるPCBを含む廃活性炭及び二次廃棄物

表 - 1 2期処理施設での処理対象物とその量

処理対象物	種類	単位	数量
トランス・コンデンサ類	トランス（漏洩物）	台	128
	コンデンサ（サージアブソーバー含み）	台	36,338
	廃PCB	トン	485
その他の汚染物等 （ ）は内数	特殊なブッシング	本	92
	PCB汚染物等	トン	3,142
	（小型電気機器）		（29）
	（安定器）		（2300）
	（感圧複写紙）		（123）
	（ウエス）		（45）
（汚泥等）		（645）	

2. 処理能力

- (1) 2期施設の操業開始は平成21年3月とし、その処理能力はPCB廃棄物の処理完了の予定時期を第1期事業と同じく平成27年3月末として、これに見合う能力とした。
- (2) 既設の第1期処理施設と相まって、6年間以内で処理できるものとし、純PCBの分解能力として第1期施設と合わせて約1.5トン/日とする。(当初処理能力は約1.8トン/日を想定していたが、第1期処理施設と合わせた安定操業や第1期の処理の実績等を踏まえ、1.5トン/日で対応できるとした。)
- 真空加熱分離設備 4.5トン/日(1.5トン/日/基×3基)(処理対象物重量)
 - 液処理設備 1期・2期合わせて1.5トン/日(PCB分解量)
 - プラズマ溶融分解設備 約10トン/日*(約5トン/日×2系列)
(*当初は1系列約5トン/日のみ先行して設置)
(処理対象物重量)

3. 処理施設の検討にあたって考慮すべき事項 (略)

- (1) 第1期処理施設との連携 (略)
- (2) 立地条件及び地域条件 (略)

4. 処理施設の満足すべき条件(略)

5. PCB汚染物等の処理システムの考え方

PCBにより汚染された小型電気機器、感圧複写紙、ウエス、汚泥等の処理システムについては、PCBを抽出、又は非汚染物を分離することは困難又は煩雑な工程となることから、前処理を経ることなく一括して分解処理することが可能なプラズマ溶融分解方式を採用することとした。

6. 処理施設の構成

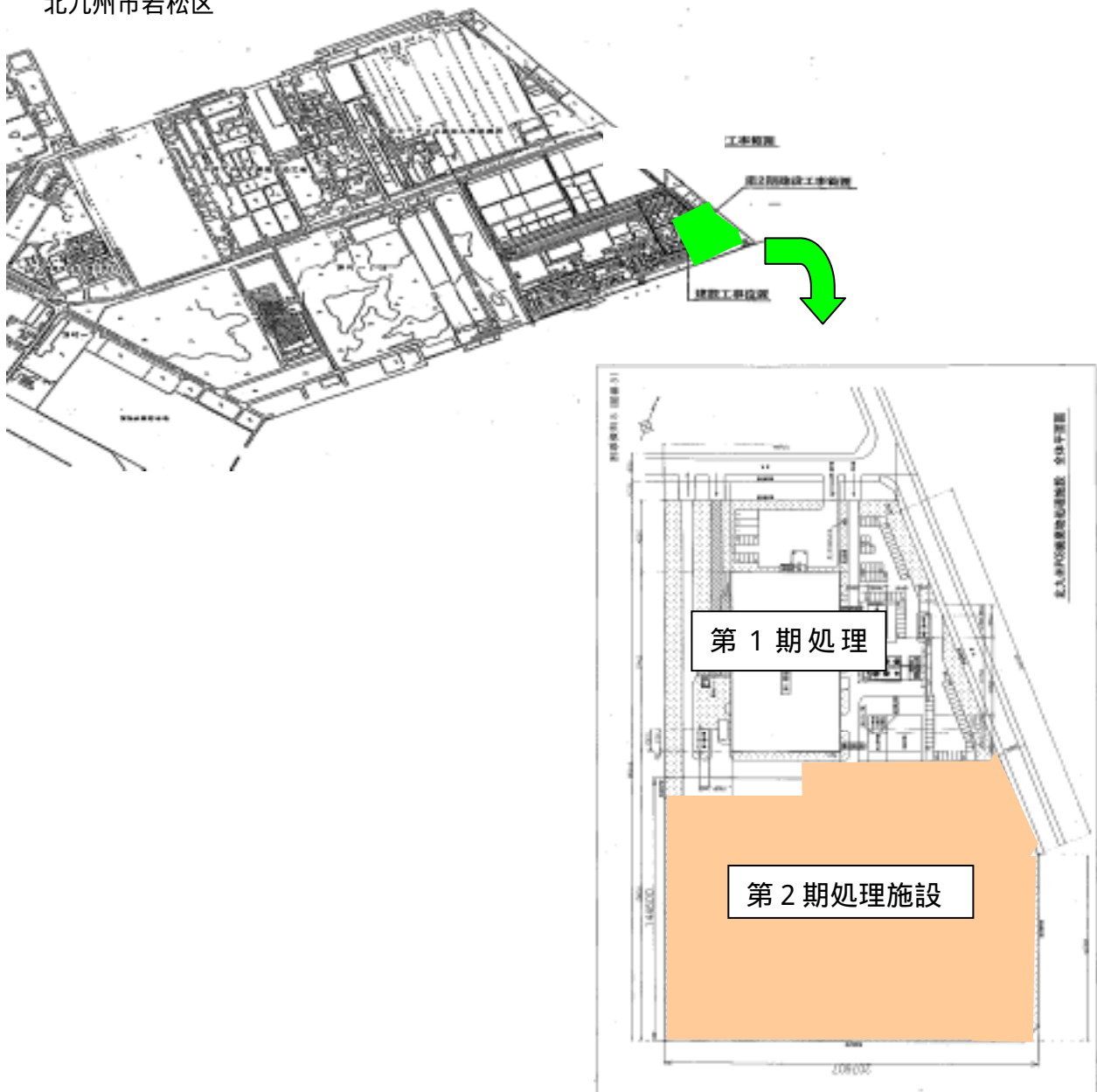
- (1) トランス・コンデンサ等の処理(略)
- (2) PCB汚染物等の処理
- 処理対象物：小型電気機器(安定器を含む)、感圧複写紙、汚泥、運転廃棄物等
 - 処理方式はプラズマ溶融分解方式(2系列)とする。設置については、まず1系列先行として比較的処理しやすいもの(安定器)から処理を行い、1系列の運転で明らかになった改善点等を織り込んで2系列目の設置に入る。
 - 先行した1系列操業期間中に汚泥の前処理方法(選別、ドラム缶詰め等)を確立する。

7. 北九州PCB処理事業(第2期)工程表 (略)

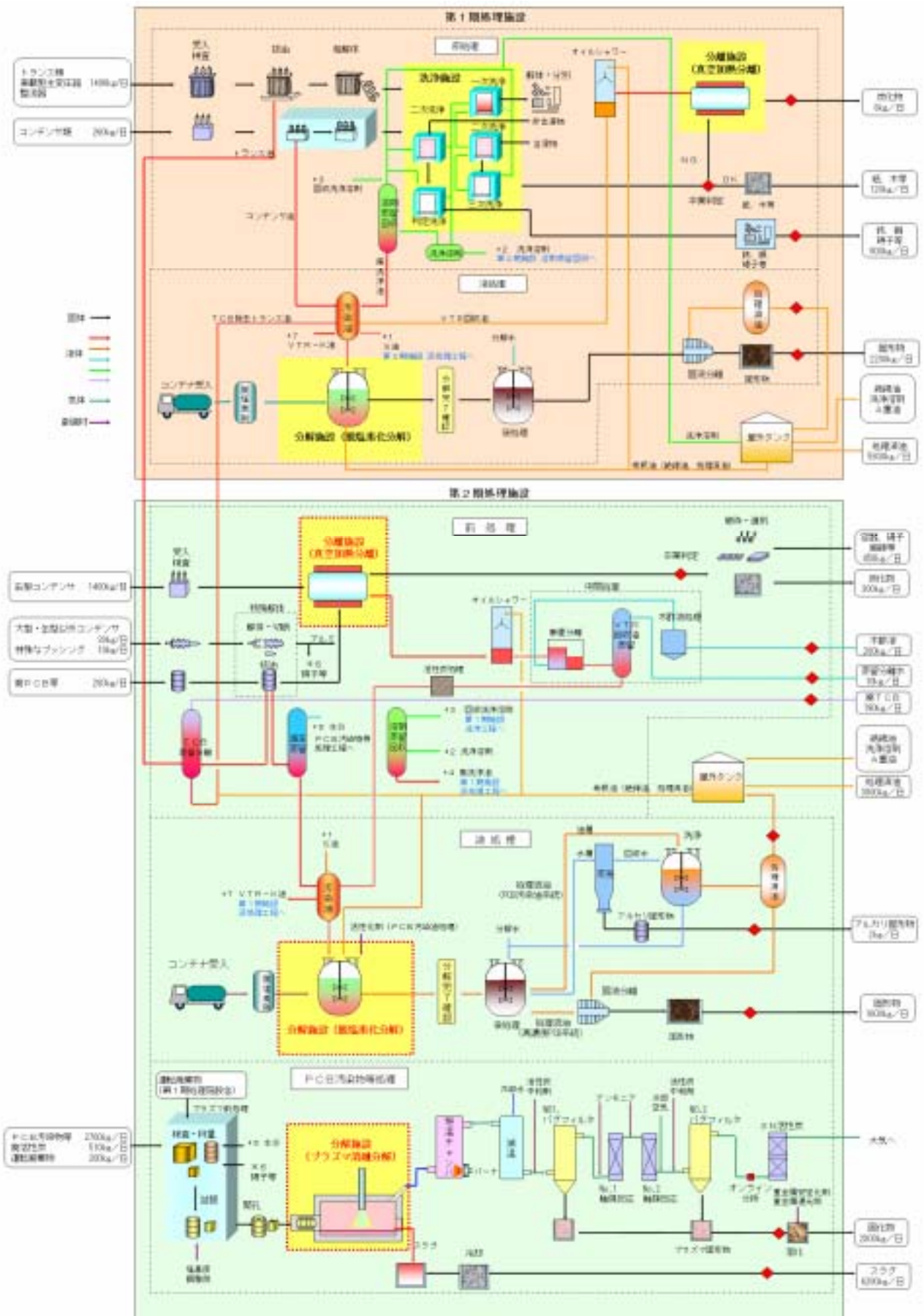
< 施設の概要 >

- ・ 工事名 : 北九州 P C B 廃棄物処理施設(第 2 期)設置工事
 - ・ 建設地 : 北九州市若松区響町 1 丁目 6 2 番地 2 4 号
 - ・ 敷地面積 : 約 5 . 4 h a (第 1 期処理施設 2 . 4 h a を含む)
 - ・ 用途地域 : 工業専用地域
 - ・ 建ぺい率/容積率 : 6 0 % 以下 / 2 0 0 % 以下
 - ・ 緑化率 : 2 5 % 以上 (目標)
 - ・ 処理期間 : 約 6 . 0 年
 - ・ 運転形態 : 2 交替 / 3 交替
 - ・ 操業開始 : 平成 2 1 年 3 月
- 建設予定地

北九州市若松区



< 全体処理フロー >



< プラズマ溶融分解設備の概要 >

8.3 主な処理施設(プラズマ溶融分解設備)

